

新潟県魚類目録補訂(VIII)

本間義治・水沢六郎

(新潟大学理学部生物学教室・新潟県立能生水産高等学校)

Further additions to "A list of the fishes collected in the Province of Echigo, including Sado Island" (VIII)

Yoshiharu HONMA and Rokuro MIZUSAWA

(Department of Biology, Faculty of Science, Niigata University and Noh High School of Fisheries)

この目録が初報(1952)されて以来、増補訂正を続けて7報を数え、すでに12年を経た。しかし、最初に述べておいた通り、本間の調査区域が主として新潟県北部(いわゆる下越地方)と佐渡島に限られ、ために富山湾に隣接する本県南西部(いわゆる上越地方)の魚類相に関する知見に乏しかった。幸い、これに多大の関心をもつ水沢の協力を得、徐々にその一端が明らかにされてきている。今回、水沢の蒐集した上越地方産のものを含めた分19種を加えると、新潟県水域に分布することが報告された魚類は520種となる。また、前報でも触れた通り、最近日本海区水産研究所の所員その他らによって、拙著に未掲載の本県産魚類が若干発表されているが、本間自身が直接観察していない種は、極力この目録には収録しない方針である。

標本同定の機会を与えられた新潟県佐渡郡畠野町立松ヶ崎中学校、財団法人佐渡博物館、西頸城郡能生町およびその近郊の各漁業協同組合員の諸氏、新潟県立両津高等学校の矢田政治教諭、ならびに一部の標本の種名決定の労を患わした東海区水産研究所の阿部宗明博士、北海道立水産試験場の上野達治博士(当時カナダ、British Columbia 大学水産学科大学院留学中)に、心からお礼申しあげる。

Class Chondrichthyes

Family Cetorhinidae

1. *Cetorhinus maximus* (GUNNERUS) ウバザメ、バカザメ T

産地：佐渡両津湾

本種は、両津湾の定置網にしばしば漁獲され、新聞紙上を賑わすもので、すでに下記報文中に掲載し^{*)**}投稿したが、1篇は未公刊のまま5年を経た。

元来、北大西洋や北太平洋に生息する寒海性種で広い分布を有するものであるが、台湾からも報告されている(鄧、1962, CHEN, 1963)。

* HONMA, Y., and M. YADA: Bull. Biogeogr. Soc. Jap., Vol. 24 (in press). 原稿紛失

** 本間義治：佐渡博物館研報、5集, pp. 12-32 (1963).

Class Osteichthyes
Family Salmonidae

2. *Oncorhynchus tshawytscha* (WALBAUM) マスノスケ N

産地：佐渡両津湾

1962年5月7日の早晩に、両津湾黒姫漁場の定置網によって捕獲されたもの1尾、体長120cm、体重15kg。本種が新潟に分布することについては、すでに疋田(1956)が触れているが、出所は明らかでない。本州では、多分新潟付近が分布の南限であろう。

3. *Salmo gairdnerii irideus* GIBBONS ニジマス N

産地：新潟県内各地

新潟県水産試験場や新潟県水産課の内水面増殖事業によるもの以外に、個人的にも放流する者があり、その後、中頸城郡笛ヶ峯や南魚沼郡の大源太キヤニオンでは自然繁殖している。そして、遊漁者がマス釣と称するのが本種を指すまでに一般的になってきている。

Family Cyprinidae

4. *Rhodeus ocellatus ocellatus* (KNER) タイリクバラタナゴ T

産地：新潟市小針、新潟県西蒲原郡鎧潟

鎧潟の標本は1962年8月と1964年5月に、また小針のものは1963年2月に採集した。経緯は明確でないが、多分関東平野よりヘラブナを移植したことに基因して増えたものであろう。

5. *Ctenopharyngodon idellus* (CUVIER et VALENCIENNES) ソウギョ T

産地：新潟県北蒲原郡胎内川その他

昨今、水力発電所建設に伴い湛水した区域などに放流が試みられ、遊漁の対象になっている。

6. *Carassius cuvieri* TEMMINCK et SCHLEGEL ゲンゴロウブナ、ヘラブナ T

産地：新潟市鳥屋野潟、新潟県西蒲原郡鎧潟、中蒲原郡亀田町、佐渡郡羽茂川など。

中村(1963)も述べているごとく、本邦産フナの種名ないし亜種名の適用については、今後なお検討が必要であり、最近発表された友田(1964)***の試論に対しても加福から異論がだされたが、一応従来のマルブナ *C. carassius* とは別種名を当ててみた。本県産のものの一部は琵琶湖産であるが、大半は関東地方の潟沼より移植したもので、本間の手許にあるもっとも古い標本は、1959年12月26日に鳥屋野潟より得た。

Family Lepidotidae (Bramidae)

7. *Brama raii* (BLOCH) エチオピヤ、シマガツオ T

産地：新潟県直江津市海岸、佐渡近海

本県内には、能生水産高等学校海洋博物館に2尾、佐渡博物館に1尾の標本が保存されてある。隣県富山の魚津市立水族館にも1尾展示されており、また新潟市科学技術教育センターの津田武美氏の私信(1963年8月31日)によれば、富山湾では1952年11~12月の候に数10尾も獲れ、1957年と1958年にもかなりとれたという。1962年10月26日に直江津海岸の地曳網

*** 友田淑郎, 1964, 昭和39年度日本水産学会年会講演.

に入った全長 230.0 mm のものは: D. III; A. II, 25; P. 19+ α ; V. I, 5; 側線鱗数 70+ α ; 第 1 鰓弓の鰓耙数 iv+2+1+9+ii; 鰓条骨数 7; 体長 157.0 mm, 体高 84.0, 体巾 23.0, 頭長 46.0, 吻長 12.0。最長胸鰭軟条は 102.0 mm に達して著しく長い。体外廓はほど卵形で甚しく側扁し、前腹域は狭い。腹鰭は小さく、その起部は胸鰭基底の中央下より前方に達していない。尾鰭は深く 2 叉し、上半葉の先端は著しく延長して糸状を呈する。前鰓蓋骨には棘がなく、鱗も小円状で棘をもたない。側線は背外廓に平行して走る。両顎と口蓋骨に狭い絨毛歯帶があるが、下顎のそれはもっとも鋭く、特に 1 対の強大な門歯がみられる。

ホルマリン液浸標本の体色は、全体が紫銀色ないし暗灰色。

世界的に、広い分布を有するものであろう。

本種の詳細な記載は、本間・水沢 (1964)**** の報文中になした。

8. *Steinegeria rubescens* JORDAN et EVERMANN ツルギエチオピア +S

産地：佐渡両津湾

1959～1960 年の冬季に両津湾の定置網によって採捕されたもの 2 尾で、そのうち全長 348.0 mm のものは: D. IV, 28; A. II, 20; V. I, 5; P. 20+ α ; 体側中央の 1 縦列鱗数 60+ α ; 第 1 鰓弓の鰓耙数 vii+1+1+7+ix。体長 266.0 mm, 体高 116.0, 頭長 102.0, 吻長 22.0, 胸鰭長 72.0。体外廓はむしろ長卵形で側扁し、頭は比較的大きい。両腹鰭間域は広く平坦水平状で三角形をなし、腹鰭から肛門までは弱い隆起縁をなす。下顎は上顎より前方に突出し、縫合部は大いに角張る。背鰭と臀鰭の前方部は同型状で、幾分鎌状に突出する。胸鰭は著しく大きく長い。尾鰭の後縁は、新月型に凹入している。腹鰭基底には、発達した鱗鞘を有する。体側鱗は大きく、後縁に深い切れ込みがあるが、棘はもたない。尾柄にある正中側列の 3 鱗は著しく拡大して連続しており、しかも顕著な中央隆起縁を形成して突出している棘をもつ。鰓孔上縁の少し前方で、しかも上方に、わずかの無鱗域が存在している。垂直鰭の大半は鱗を被る。側線はない。歯は両顎共に絨毛状でやや広い歯帶をなして並んでいるが、下顎の方が幾分大きく鋭い。口蓋骨にも狭い絨毛歯帶がある。

ホルマリン液浸の体色は紫黒褐色で、胸鰭を除く各鰭や吻、下顎は特に濃い。

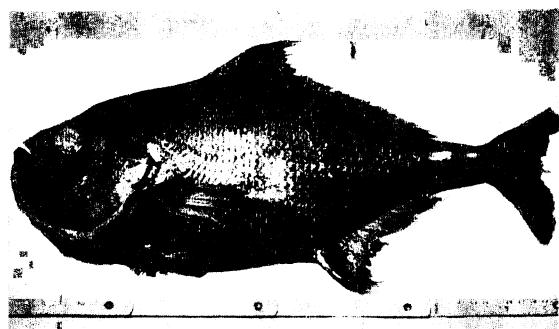


Fig. 1. *Steinegeria rubescens* JORDAN et EVERMANN
(ツルギエチオピア) taken from Ryotsu Bay, Sado Isl., Sea of Japan. Body length 266.0 mm.

**** 本間義治・水沢六郎：佐渡博物館々報, 13号, 12-16, 2 pls., 1964

暖海域に広く分布するものであろうが、比較的稀な魚で、日本海側から初めて記録されたことになる。

本種についても、詳細は本間・水沢 (1964)**** の中に記載した。

9. *Taractichthys longipinnis* (LOWE) ヒレジロマンザイウオ、マンザイウオ +S

産地：新潟県西頸城郡能生町沖、佐渡近海

能生水産高等学校海洋博物館に陳列されているものは、1961年9月25日能生町沖約2浬の地点で、手縄網によって採捕された全長615.0 mmの乾燥剥製標本：D. III, 32; A. II, 25; P. 20+ α ; V. I, 5; 体側中央の1縦列鱗数は40~42枚。体長420.0 mm, 体高224.0, 頭長131.0, 吻長38.0, 腹鰓長40.0, 最長背鰓軟条192.0, 最長臀鰓軟条180.0。体外廓は卵形で側扁するが、体は非常に高い。頭頂付近は大いに高まり、両眼隔は凸形をなす。腹鰓は小さく、腹鰓正中隆起線の上方に位置する。胸鰓は巾狭く延長し、背・臀鰓の前方部は著しく延長して鎌状を呈する。尾鰓の後縁は、半月状に深く湾入している。体側鱗は縦列方向に規則正しく並び、甚だ大きいが無棘。尾柄にある体正中側鱗の後縁には、深い切れ込みがある。側線はない。歯は両顎に巾広い歯毛帶として存在し、口蓋骨にもある。



Fig. 2. *Taractichthys longipinnis* (LOWE) (ヒレジロマンザイウオ、マンザイウオ) taken from off Noh-machi, Niigata Prefecture, Sea of Japan. Body length 420.0 mm.

体色は暗灰色で、垂直鱗は一層濃く、胸鰓は暗色。尾鰓後縁に新月状の白色部がある。

暖海域に広く分布するものであろうが、日本海からは未記録であったと思われる。

本種についても、本間・水沢 (1964)**** に詳述した。なお、これで新潟県水域から採られたシマガツオ科(エチオピア類)魚類は、先報(本間, 1962)**** のサガミマンザイウオ *Taractes platycephalus* MATSUBARA を含めて、4属4種となった。

Family Pteraclidae

10. *Centropholis petersi* HILGENDORF リュウグウノヒメ S

産地：新潟県西頸城郡青海町親不知沖、山形県西田川郡温海町米子海岸

1964年4月9日親不知沖900~1,000 m の地点(水深約200 m)でマス(サクラマスとカラフ

***** 本間義治、魚雑、ix卷1~6号、127—134頁(1962)

トマス) 延縄によって獲られた全長 240.0 mm のもの 1 尾は、能生水産高等学校海洋博物館に保存してある。D. 48; A. 40; P. 20; V.I, 5; 体側の 1 縦列鱗数は 49 枚。体長 192.0 mm, 体高 80.0, 頭長 48.0, 吻長 12.0, 尾柄高 12.0, 眼径 24.0。体外廓は長卵形に近く、大いに側扁し、項部で隆起しているが、尾柄は甚だ細い。頭は小さいが、眼は大きく吻長の 2 倍を占める。口はむしろ垂直に近いくらいで、両顎はほぼ同長。背鰭基部は後頭部上にあり、背鰭は第 14 軟条がもっとも長く、それより前方部のものは順次に短かく、最前のものは鱗下に没する。背鰭の後縁は凹形、臀鰭は胸鰭基底よりわずかに後方に始まり、第 6 軟条が最長で鎌状を呈する。背・臀鰭条とも関節がなく毛状。胸鰭はほぼ頭長と同長で、腹鰭は喉位。尾鰭は深く 2 叉して矢筈型となっている。体側鱗は大きく、後縁が深く切れ込み、1 箇の棘を有して縦列方向に規則正しく並んでいるので、一大隆起線を形成している。側線は認めがたい。歯は両顎に帶状に存在するのみ。

体色は蒼銀色で、腹方は銀白色に光る。背・臀・腹鰭膜は黒色、尾鰭は暗色であるが、胸鰭は黄白色。

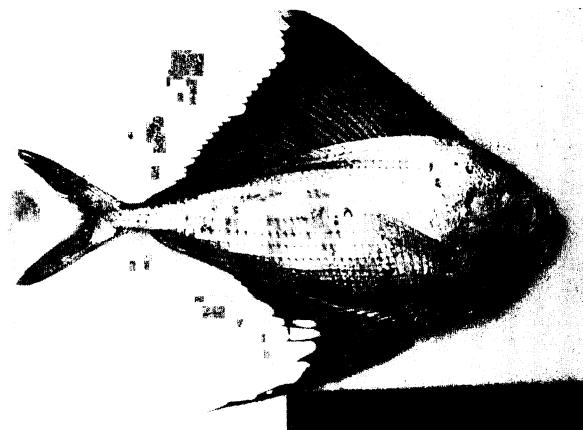


Fig. 3. *Centropholis petersi* HILGENDORF (リュウグウノヒメ)
taken from off Oyashirazu, Niigata Prefecture, Sea of Japan.
Body length 192.0 mm.

江ノ島、山口県萩沖、太平洋上の 36°N, 174°E の地点、高知県甲浦、和歌山県日高、兵庫県津居山沖から報告されている程度なので、高緯度の新潟・山形両県内での記録は注目されてよい。温海町のものは、1958 年 4 月中旬にやはりマス延縄でとれたもの。阿部 (1965) は、1961 年秋田県沖でとれたものを検査している。

Family Nemipteridae

11. *Nemipterus virgatus* (HOUTTUYN) イトヨリダイ N

产地：新潟県西頸城郡能生町小泊沖

1934 年 2 月 16 日に、小泊沖より手縄網によって採集された体長 101.0 mm のもの 1 尾が、能生水産高等学校海洋博物館に陳列してある。

日本側では、富山湾まで産することが知られていた。

Family Pomadasyidae (Haemulidae)

12. *Hapalogenys nitens* RICHARDSON ヒゲソリヒゲダイ +S

产地：新潟県西頸城郡能生町，三島郡寺泊町

1963年10月10日能生沖2~3浬の地点水深10~20ヒロを曳いた手縄網に2尾漁獲された。

本種が本県寺泊沖に産することは、すでに深滝(1959)*****が報じており、富山湾にも生息する。

Family Triacanthodidae

13. *Triacanthodes anomalus anomalus* (TEMMINCK et SCHLEGEL) ベニカワムキ S

1964年2月26日に手縄網によって得られたもので、全長72.0mmのもの1尾：D.VI+15；V.I, 2；P.I+13, 体長56.0mm, 腹鰓起部における体高30.0, 体巾11.0, 最長背鰓棘19.0, 腹鰓棘17.0, 眼径10.0, 吻長10.0, 両眼隔7.0, 吻端より肛門までの距離45.0, 吻端より背鰓起部までの距離28.0。

日本海側では、富山湾まで分布することが知られている。

Family Ostraciontidae

14. *Lactoria cornutus* (LINNAEUS) コンゴウフグ S

产地：新潟県西頸城郡能生町小泊沖

1963年10月7日に得たもの1尾。しかし、その後の管理悪く、結局標本は破棄したが、眼前棘を含む全長は190.0mmであった。D.9；A.8；眼前棘長16.0mm, 頭長24.0, 体高43.0, 尾鰓長68.0, 尾鰓後縁の高52.0。

本種も、日本海側では富山湾まで分布することが知られている。

Family Tetraodontidae

15. *Lagocephalus lagocephalus oceanicus* JORDAN et EVERMANN クマサカフグ S

产地：佐渡松ヶ崎

1961年10月初旬に、佐渡松ヶ崎沖で捕獲された全長520.0mmのもの1尾：D.12；P.12；A.13, 体長470.0mm, 頭長123.0, 眼径24.0, 吻長56.0。胸鰓下方の1/3が白い。

太平洋の温暖域に広い分布を有するものであろうが、今まで日本海側からは全く未報告のようである。

Family Agonidae

16. *Tilesina gibbosa* SCHMIDT オニシャチウオ N

产地：新潟県西頸城郡能生町

正確な採集記録が不明の1標本で、1958年頃得たものという。能生水産高等学校海洋博物館に陳列してある。尾鰓は痛んでいるが、全長161.0mm:D.XVIII+7；A.26；P.16；V.I, 2；有棘の体側鱗板は47枚。体長141.0mm, 頭長32.0, 胸鰓基部の体高10.2, 胸鰓基部の体巾

***** 深滝 弘, 1959, 水槽内のヒゲダイに寄生したウオビルの一種。日本海区水試研連絡ニュース, 101号, p. 2.

12.5, 胸鰭長 27.0, 眼径 3.5, 吻長 9.0, 両眼隔 3.0, 下顎長 10.5, 上顎長 8.8, 尾柄高 3.0。体は延長し、頭・胸部は縦扁するが尾部はわずかに側扁。体の各側は 5 縦列の有棘骨盤で被われている。前鰓蓋骨に 3 棘あるが、最上棘がもっとも強大。眼は高位で大きく、眼窩は窪んだ両眼隔部の 2 倍以上ある。口は少し管状であるが、下顎は著しく突出しており、隅角は巾広く板状を呈する。

日本海一帯、本州北部から北太平洋区にわたって広く分布するものであろう。

Family Cyclopteridae

17. *Cyclopterus lindbergi* SOLDATOV ナメフウセンウオ N

産地：佐渡近海

1953 年 12 月に佐渡海峡の深所より得たもの、および 1955 年 7 月に佐渡北西沖のひょうたん瀬より得たもの各 1 尾。これら体前部に骨質の瘤状突起の少ないことを特色とする標本は、上野達治博士によって本種と同定された。

Family Bothidae

18. *Pseudorhomus pentophthalmus* GÜNTHER タマガニゾウビラメ +S

産地：新潟県海岸各地

ごく普通種で、沿岸域よりかなり多獲される。1959 年 9 月 14 日と 1962 年 1 月に、西蒲原郡間瀬沖より得た標本を蔵している。

Family Pleuronectidae

19. *Poecilopsetta plinthus* (JORDAN et STARKS) カワラガレイ S

産地：新潟県西頸城郡能生町

1963 年 11 月 20 日能生沖 100～150 m の深所で手縄網によって漁獲された全長 131.0 mm のもの 1 尾：D. 64; A. 50; P. 8; V. 6; 有眼側第 1 鰓弓の鰓耙数 5+10；これら鰓耙はいずれも短いが、針状で鋭く、下方の最長のものは 1.5 mm；側線有孔鱗数 65；体長 105.5 mm、頭長 23.2、体高 45.3、体巾 7.8、眼径は背側のもの 8.5、腹側のもの 8.2、吻長 2.0、胸鰭長 11.6、顎長 6.0、腹鰭長 9.2。体盤は長卵形ないし小判型で、極めて扁平状。両眼は突出して大きいが、両者は狭い無鱗の隆起縁で隔てられる。

吻は極めて短かく、口位は大いに斜めで、垂直によほど近い。背鰭は、上眼の中央上方の無眼側から始まる。有眼側は櫛鱗であるが、無眼側の櫛は至極弱く、これら鱗は大きくて取れ易い。尾鰭後端は尖る。側線は両眼隔隆起の延長線上のやや上方、すなわち鰓孔上隅から後背(上)方へ向かい、ゆるい弧を画いているものの、ほぼ体中軸と平行に走ったのち胸鰭上方で斜行し、ついで体側中央を直走して尾鰭に至る。しかし、無眼側にはない。

ホルマリン液浸の体色はほぼ暗灰色で、臓域は暗色。体の隨所に黒褐色の瓦を敷き詰めたような不定斑があり、尾鰭にある 1 対の不定斑は漆黒色に近い。背・臀鰭にも不規則の暗色斑があるが、胸・腹鰭のそれらは点状で、無眼側の背・臀鰭担鰭骨列は黄土ないし蛋白色を呈する。

本邦太平洋側の暖海域では、ごく普通のものであろうが、日本海側からは未報告であったと思われる。

引用文献 References

- ABE, T., 1961-1962. Notes on some fishes of the subfamily *Braminae*, with the introduction of a new genus, *Pseudotaractes*. Jap. J. Ichthyol., viii(3/4), 92-99; viii(5/6), 101-114.
- 阿部宗明, 1965. 新日本動物図鑑 [下]. p. 258.
- 赤崎正人, 1962. タイ型魚類の研究. 形態・系統・分類および生態. 368pp. (京大農学位論文).
- CHEN, J. T. F., 1963. A review of the sharks of Taiwan. Biol. Bull. 19, Ichthyol. Ser. (1), Dept. Biol., Coll. Sci., Tunghai Univ., 102pp.
- FITSCH, J. E., 1953. Extensions to known geographical distribution of some marine fishes on the Pacific coast. Calif. Fish Game, xxxix(4), 539-552.
- 疋田豊彦, 1956. 北海道沿岸及び河川で捕えられる太平洋鮭鱈類. 孵化場試験報告, (11), 25-44.
- 本間義治. 1963. 佐渡の魚類. 佐渡博物館研究報告, (5), 12-32.
- 本間義治・佐渡近海のエチオピア (シマガツオ) 類. 佐渡博物館々報, (13), 12-16, 2 pls.
- 本間義治・杉原千代太, 1964. 日本海で得られたリュウグウノヒメ. 採と飼類, xxvi (9), 245.
- HONMA, Y., and M. YADA, 1966. A list of the fishes from the Ryotsu Bay and adjacent waters, Sado Island, the Sea of Japan. Bull. Biogeogr. Soc. Jap., xxiv (in press).
- 蒲原稔治, 1940. 魚綱硬骨魚目棘鰓亞目鱸型族鱈群. 日本動物分類, xv-ii(5), 225pp.
- KAMOHARA, T., 1952. Revised descriptions of the offshore bottom-fishes of Prov. Tosa, Shikoku, Japan. Rep. Kochi Univ., Nat. Sci., (3), 1-122.
- KAMOHARA, T., 1962. Notes on six additions to the marine fish fauna of Kochi Prefecture, Japan. Rep. Usa Mar. Biol. Stat., ix(2), 1-6.
- 片山正夫, 1943. 日本海で得たシマガツオ科及びベンテンウオ科の魚類. 植動., xi(6), 46-47.
- 黒田長札, 1957. 駿河湾魚類追加及び付記 (第14). 動雜., lxvi(12), 21-23.
- 黒田長札, 1962. 魚類の生活色に就いて (第14). 魚雜., x(1), 1-5.
- KURONUMA, K., 1941. Notes on rare fishes taken off the Pacific coast of Japan. Bull. Biogeogr. Soc. Jap., xi(8), 37-67.
- LINDBERG, G. U., and M. E. LEGEZA, 1955. A revision of the genera and the species of fishes belonging to the subfamily Cyclopterinae. Trav. Inst. Zool. Acad. Sci. USSR., xviii 389-458. (in Russian)
- MEAD, G. W., 1957. On the bramid fishes of the Gulf of Mexico. Zoologica, N. Y., xlvi(2), 51-61.
- MEAD, G. W., and G. E. MAUL, 1958. *Taractes asper* and the systematic relationships of the Steineriidae and Trachybercidae. Bull. Mus. Comp. Zool., Harvard Coll., cxix(6), 393-418.
- 中村守純, 1963. 原色淡水魚類検索図鑑, 258pp.
- OKADA, Y., and K. SUZUKI, 1956. Notes on the young of rare fish, *Taractes steindachneri* (DÖDERLEIN). Rep. Fac. Fish., Pref. Univ. Mie, ii(2), 195-198.
- 鄧 火土, 1962. 台湾産軟骨魚類の分類ならびに分布に関する研究, 304pp. (京大農学位論文)

Résumé

In this paper we have enumerated nineteen unrecorded species of fishes with brief descriptions, which are to be newly added into a list of fishes of Niigata Prefecture, the Japan Sea side. We have now checked just 520 species of fishes from the waters around Niigata Prefecture.

Among the fishes listed herein, there are one basking shark, *Cetorhinus maximus*; one Pacific salmon, the so-called chinook or king salmon, *Oncorhynchus tshawytscha*, which seems to be the southern limit of distribution in the Japanese Islands; four fresh water fishes chiefly transplanted from the Kanto district of the Pacific coast, such as rainbow trout, *Salmo gairdnerii irideus*, rose bitterling, *Rhodeus ocellatus*, grass carp, *Ctenopharyngodon idellus* and deep crussian, *Carassius cuvieri*; three

bramid fish, *Brama raii*, *Steinegeria rubescens*, and *Taractichthys longipinnis*, of which the latter two are rare species and first record from the Japan Sea; a rare and noteworthy pteraclid fish, *Centropholis petersi*, which seems to be the eighth records of catch from the adjacent waters of Japanese Islands; seven marine fishes of subtropical or temperate-water, such as, *Nemipterus virgatus*, *Hapalogensis nitens*, *Triacanthodes anomalus anomalus*, *Lactoria cornutus*, *Lagocephalus lagocephalus oceanicus*, *Pseudorhombus*, and *Poecilopsetta plinthus*, of which the puffer, *L. l. oceanicus*, and the small flat fish, *P. plinthus*, have not been reported from the Japan Sea probably; and two boreal bottom-fishes, *Tilesina gibbosa*, and *Cyclopterus lindbergi*.